



モジュール2-4

● 表題・枚数・時間

- 法と倫理とガイドラインー認知症の意思決定支援ガイドライン 解説と研修
モジュール 27 枚, 約 40 分 (なお、このモジュールは前半・理論編(17まで)と後半実践編(18以降)に分けて提供することも可能である)

● モジュールの概要

このモジュールは、認知症の人の日常生活・社会生活の意思決定支援のガイドライン(平成 30 年 6 月・厚生労働省)の「解説」と「研修」を対象とする。患者が認知症と診断されると、その人の意思は聞かれず家族が決めてしまう、支援があればまだ意思決定できる余地があるのに支援をしないことなどは日常臨床では枚挙にいとまないが、このガイドラインは、意思決定支援の大事さを訴え(倫理的な側面)ると同時に、意思決定支援のプロセスと支援のヒントを示すものであり、認知症の人にとどまらない意思決定支援の基礎を示している。また、このガイドラインは、研修が用意されており、厚生労働省の HP から YouTube 経由で、研修用のビデオを見ることができ、DVD を見ることのできる環境の下で、自己研修の仕方について解説するものである。

(厚生労働省 HP<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000212395.html>)

● 講師からのキーメッセージ

1. 認知症の意思決定支援のガイドラインができるまでの過程について知る。
2. ガイドラインの、規範的・倫理的な側面とプロセス・ヒントの側面、本人の意思決定支援領域と他者の決定領域を知る。
3. 研修教材(DVD 等)を通じて、認知症の人の生の声を聴き、日常生活・社会生活で意思決定支援のプロセスを知る。

● モジュールの目標

このモジュールを修了すると、受講者は:

1. 認知症ガイドラインの意味を理解できる。
2. 意思決定支援のプロセスで我々が陥りやすい点について説明できる。
3. 意思決定支援の場面を理解し、それがどのようなプロセスによって構成されているのか、それを実施する上でどのような工夫・ヒントがあるのかを理解できる。

● 事例を検討するにあたって

事例は、DVD によって提供されています。

- DVD で、認知症の人の生の声を聴いた上で、認知症の人が望むことと、私たち支援者との違いについて気づいてください。
- 日常生活及び社会生活の意思決定支援の事例 DVD を通じて、意思決定支援をより近くのものと感じてください。身近にある事例から学んだことを実践してください。